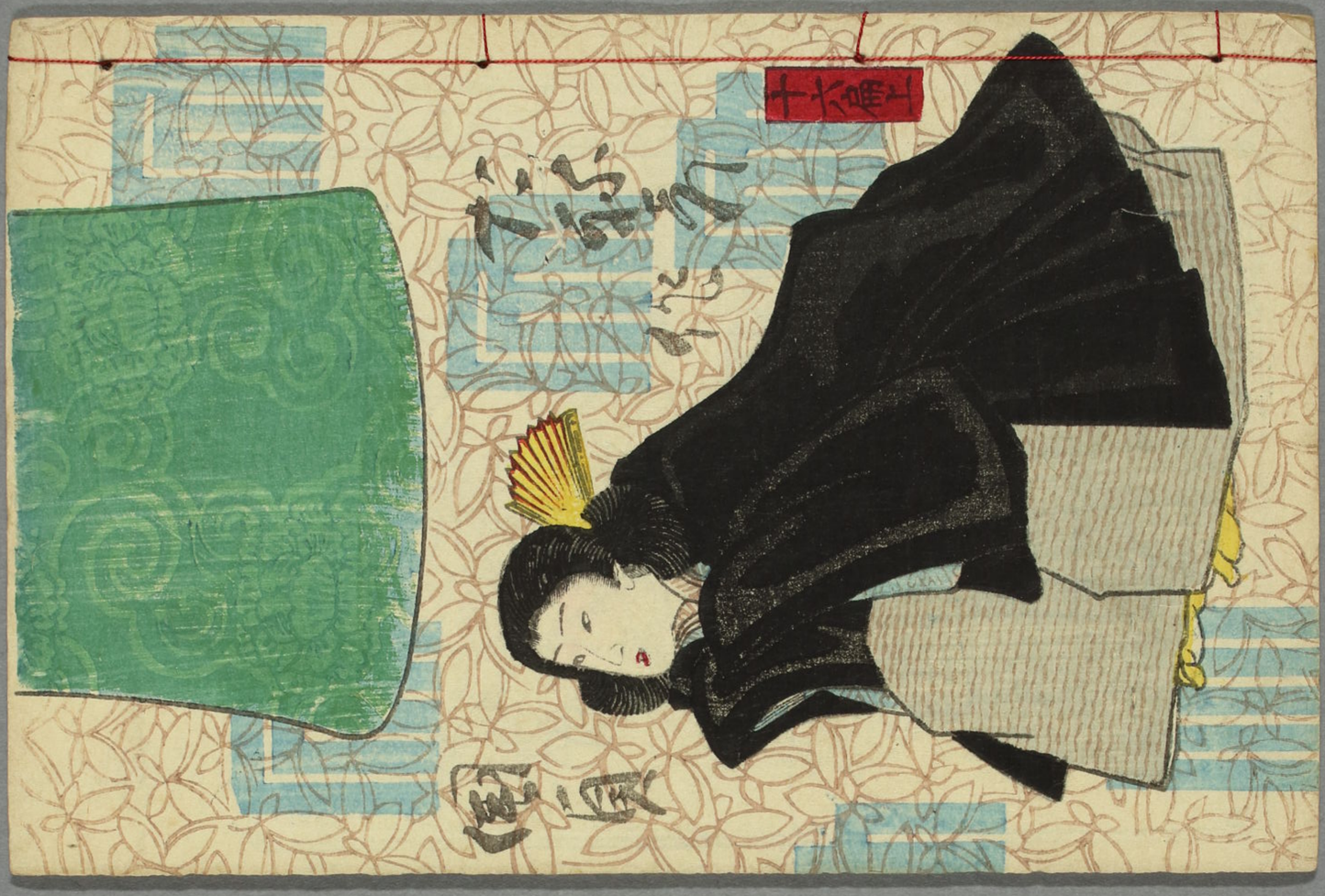
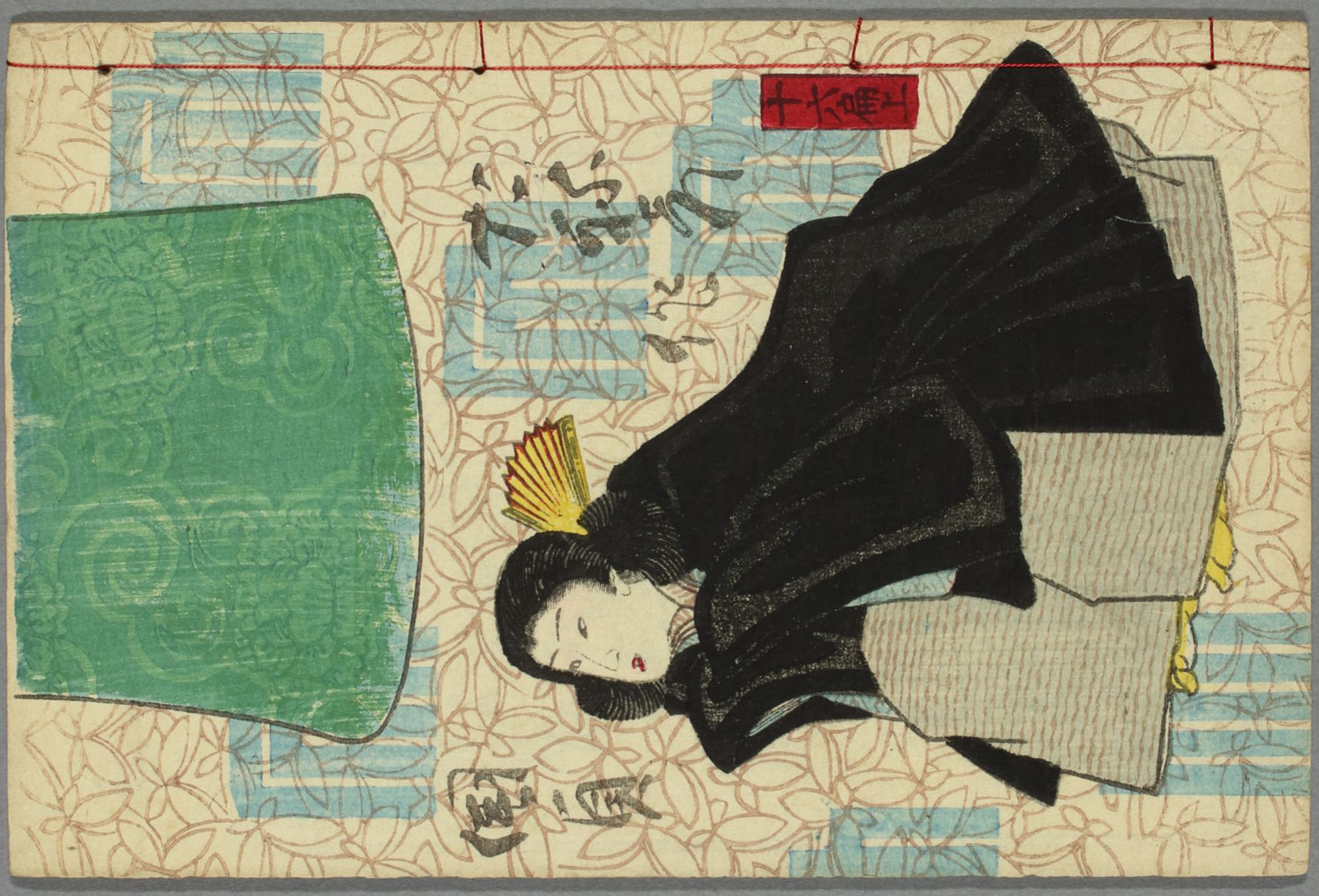


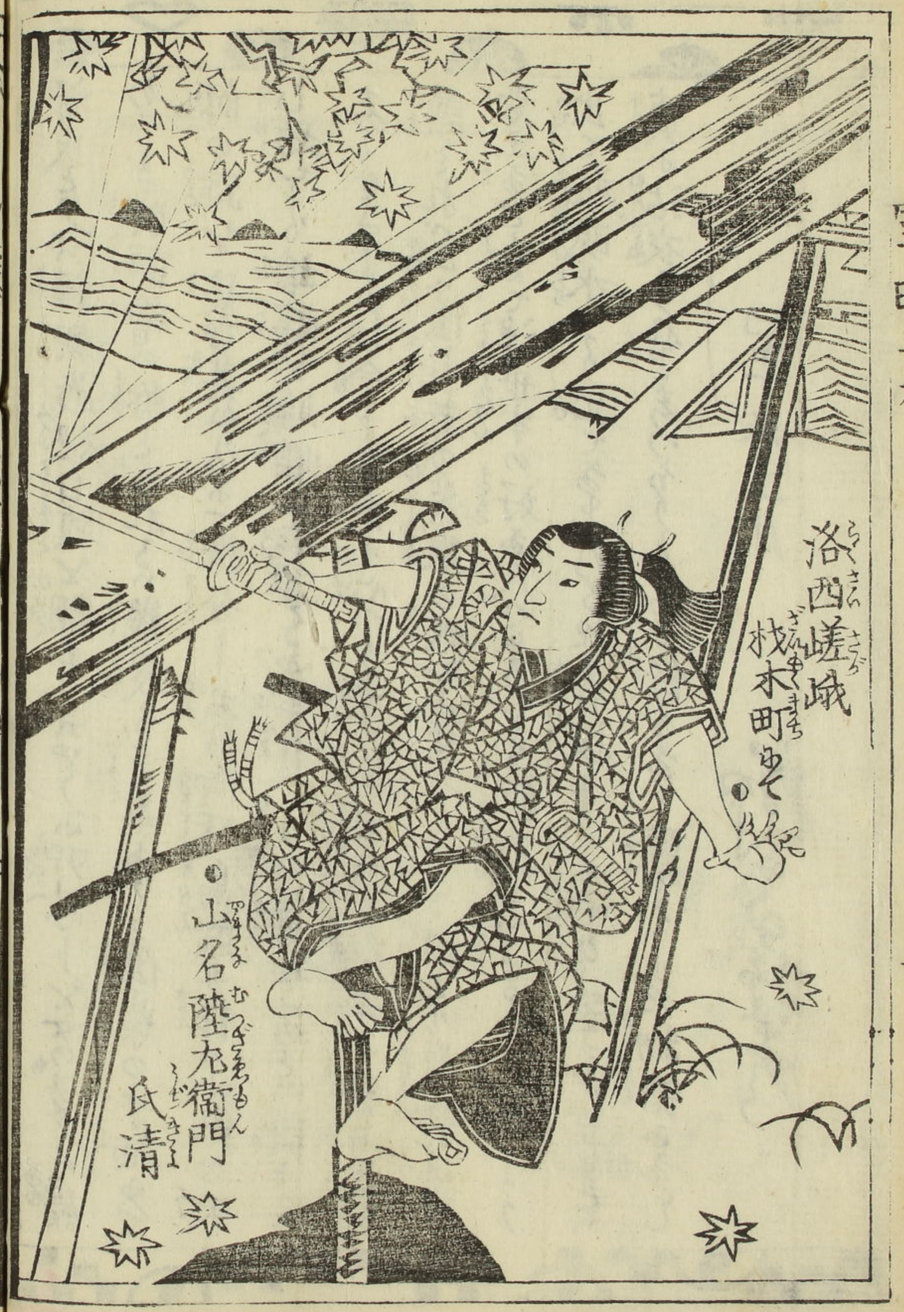


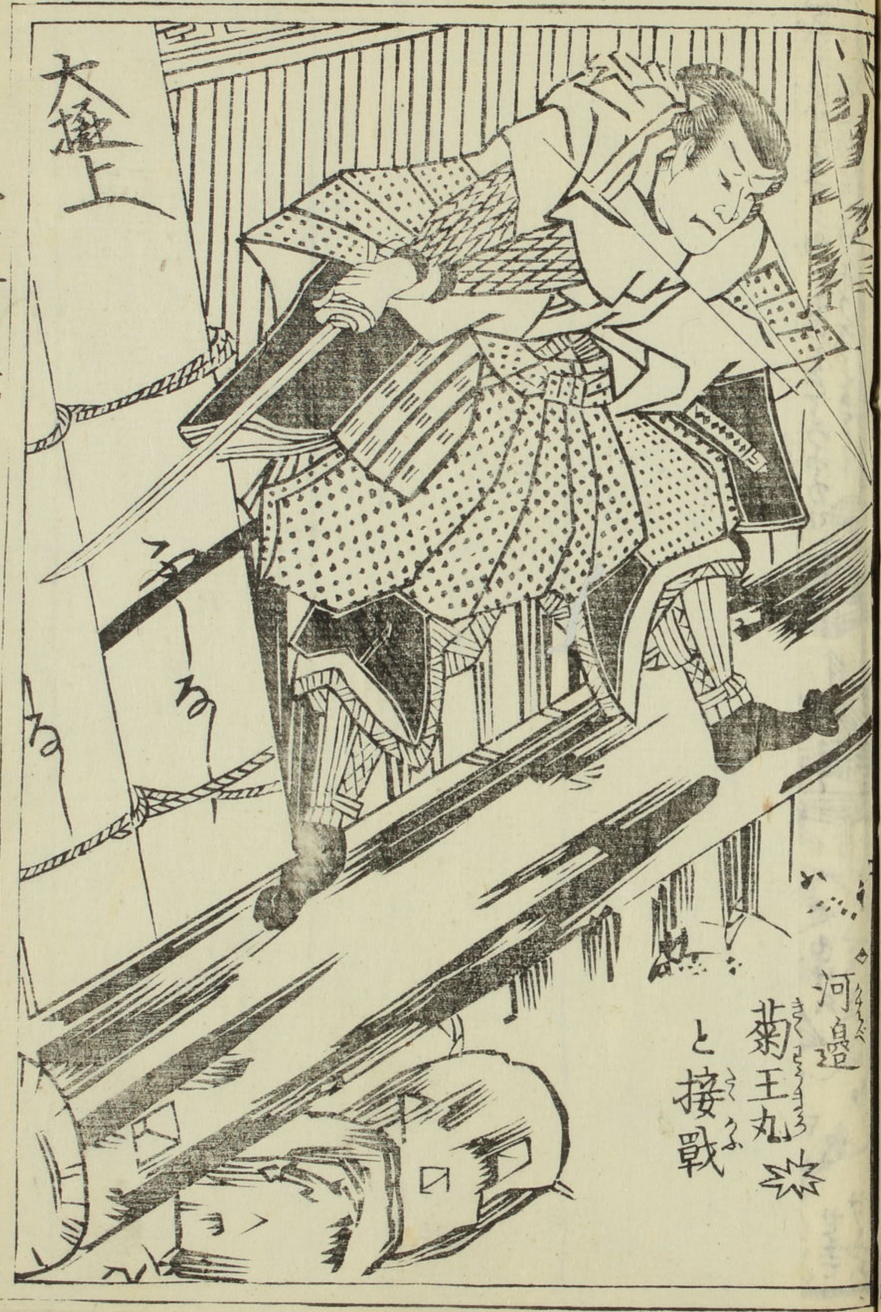
14
3157
52
(31)

源氏といへば頼朝義經白旗を翩まと云ふに所思しを女の多くて媚
かしき物語繪の称となれるは幾度も言事なから偐紫の手柄ゆて
師の跡を復む其かひに一株分し花の御所烏敢な作は山師の天
乙坊をも雄蝶を雌蝶に変ける次手是も夕で著迷さのこは誰々も
しらせたまはむ今ハ余も心つかぬまゝ自笑の絶筆の樂日記を
讀くれば山蔭長者の落胤の姫を家来が見る話とも贋物を造る
悪工など有て浮世本の好な人にしたるも剽竊しなるゆて蓋より
出て瓶覗水より出てなまぬるは書振なりと哂ひたまはむことは
真に沾衣なれどしつかりとしたる條もなく騒々たしは物語になむ

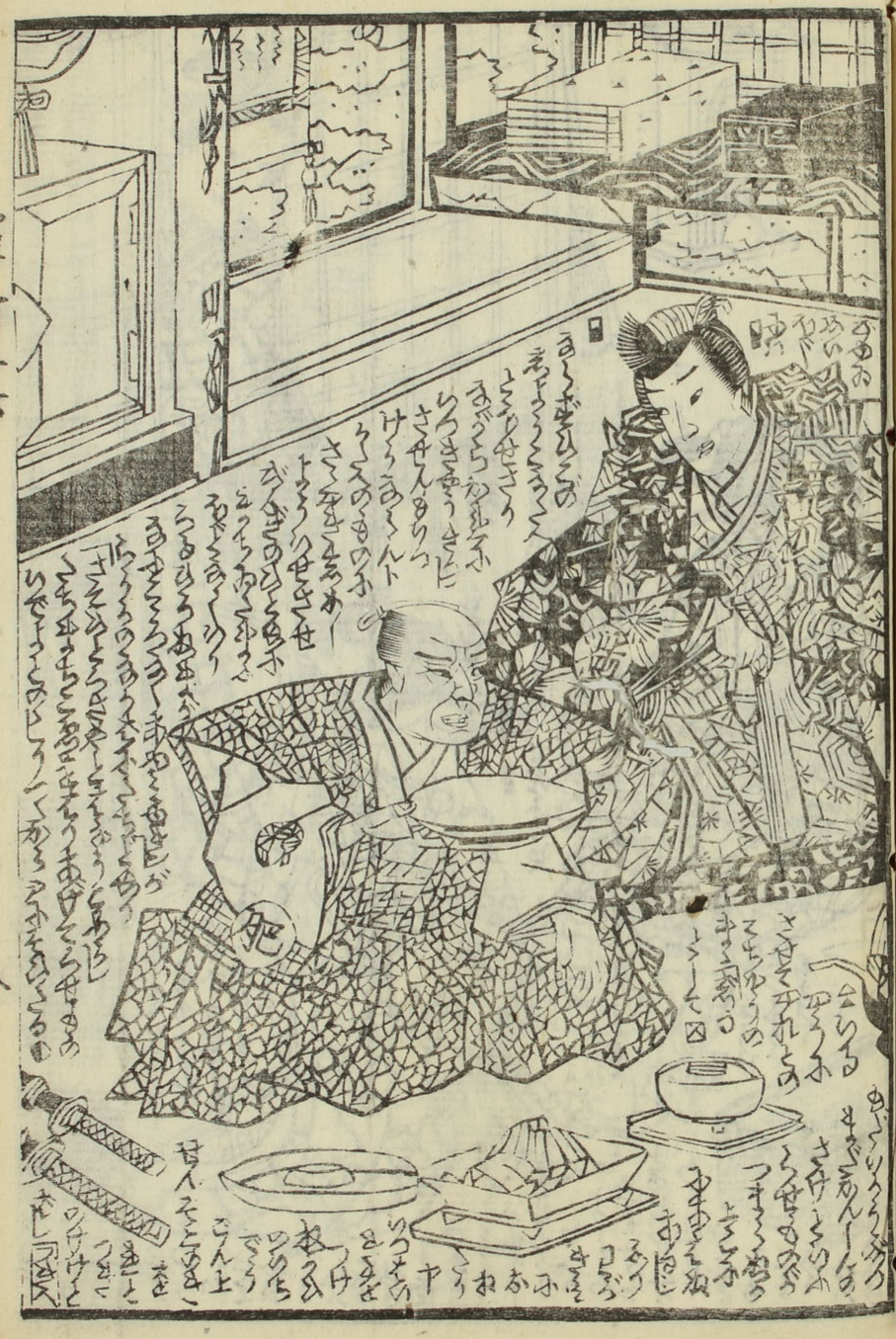
巳年春正月

柳々の稀考


洛西嵯峨
桂木町にて
山名陸九衛門
氏清

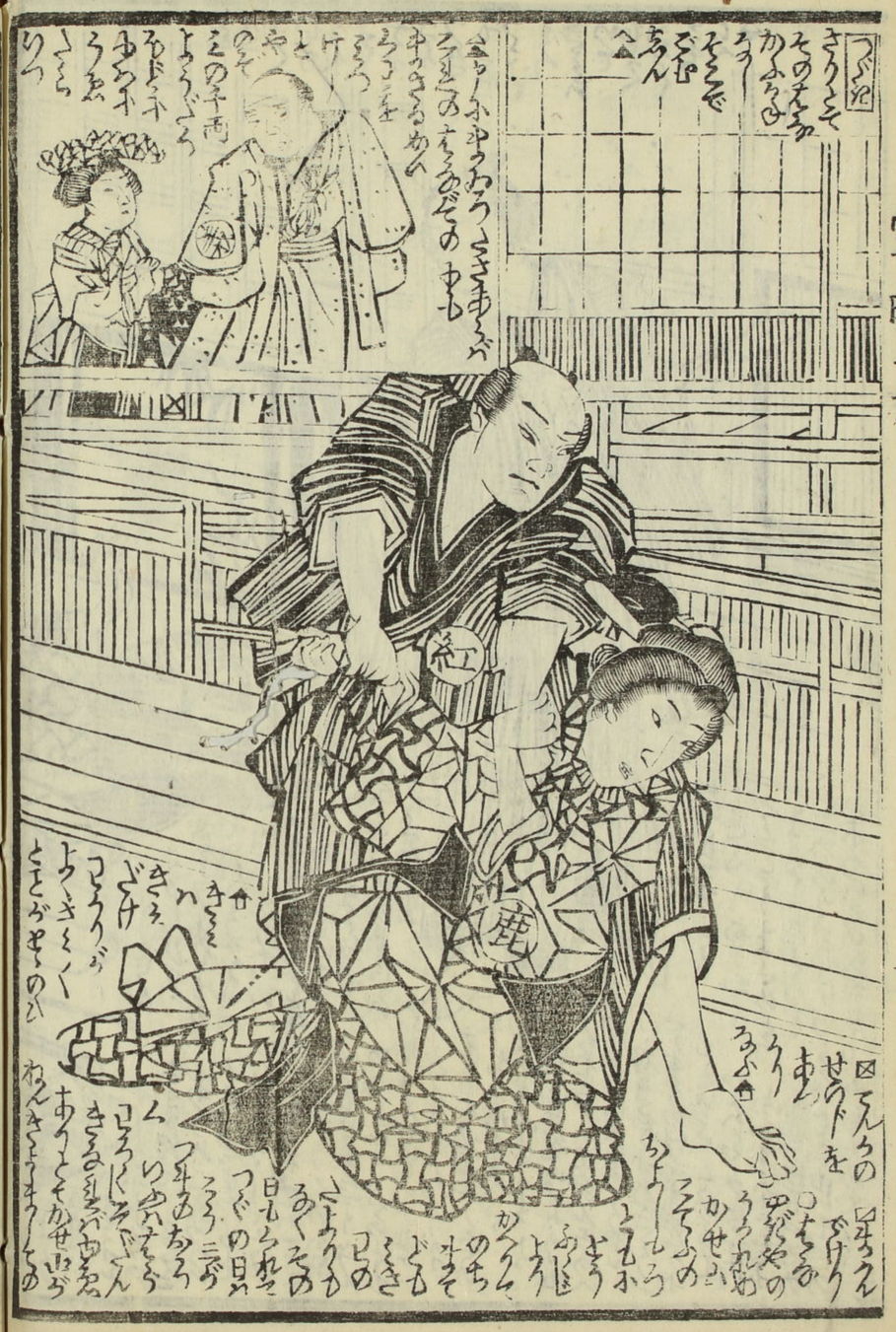

大盛上
河邊
菊王丸
と接戰

柄



枝

緑
珠



柳亭種彦作

歌川國貞画

柳蔭月朝妻　十編　大尾　山々亭有人作　梅朝横國貞画

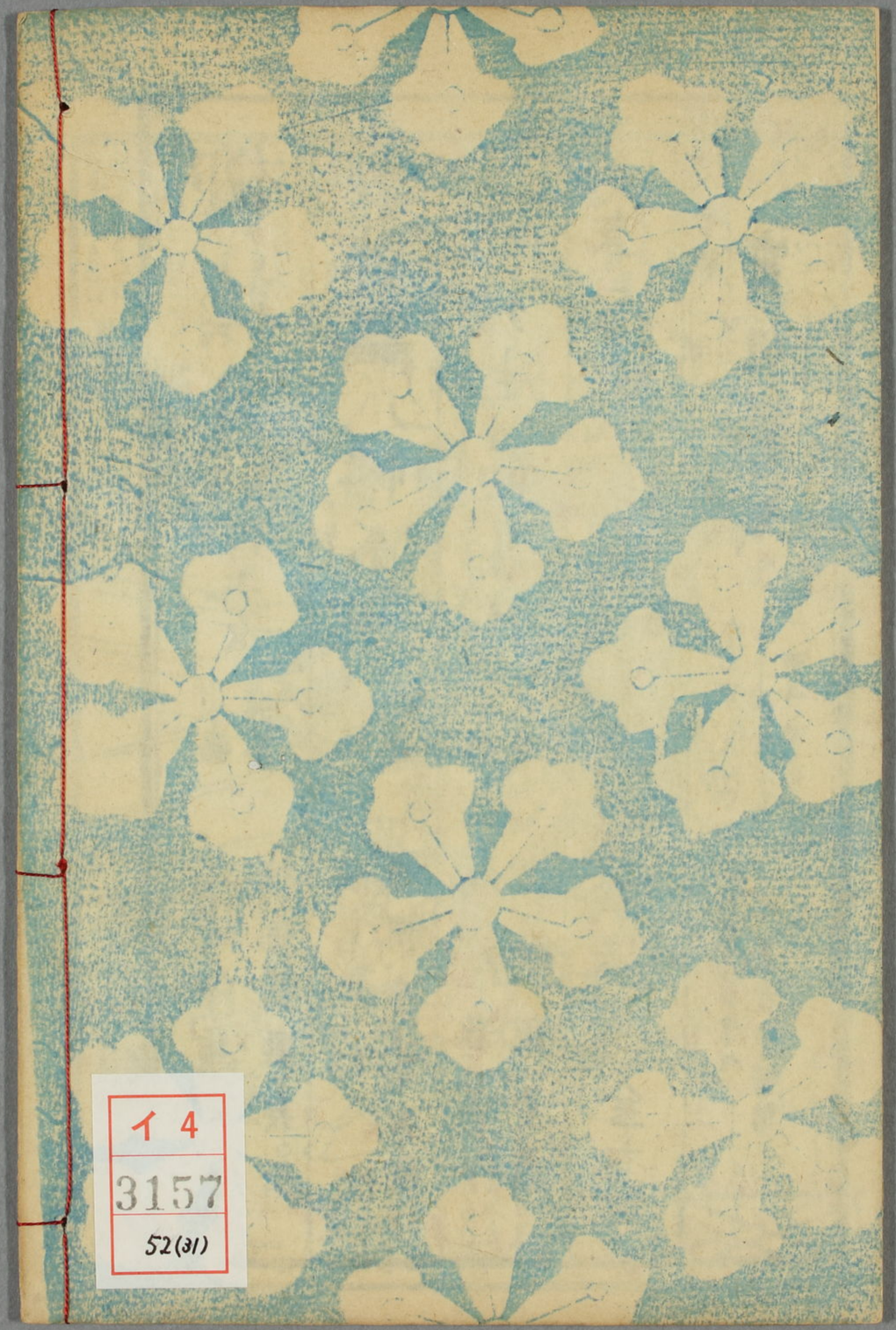
藪黄鷂八幡不知　十編　大尾　山々亭有人作　錦朝横芳虎画

阿玉ケ池櫛月形　五編　大尾　爲永春水作　梅堂國要画

八犬傳犬の双紙　六十　大尾　柳亭作　國政画

小學行儀法　全一冊

實母散


イ 4
3157
52(31)

十六扇下

14
3157
52
(32)

つくも

あゝくやしの
きやときろくつて
ものくるわ
あゝきくしたい
さそくはやくみと
ろりくまつのーろ
おくらかのーやと
そこらいろみきくー
ろくろくろ
そのくろも
ものくくくむかせ山も
ろのくさあくひともお
こころもこぐろくだろう

蝶

蛙

せんくまあと
くそこまりの

あくて
あるけるが
ゆあいへぐそく
むくくようう
くろくろくろ
くろくろの

うんめの
ちこまつこかう
まあのおのふこそそそ

ろうもぐき
これからこうくる
めいよあ

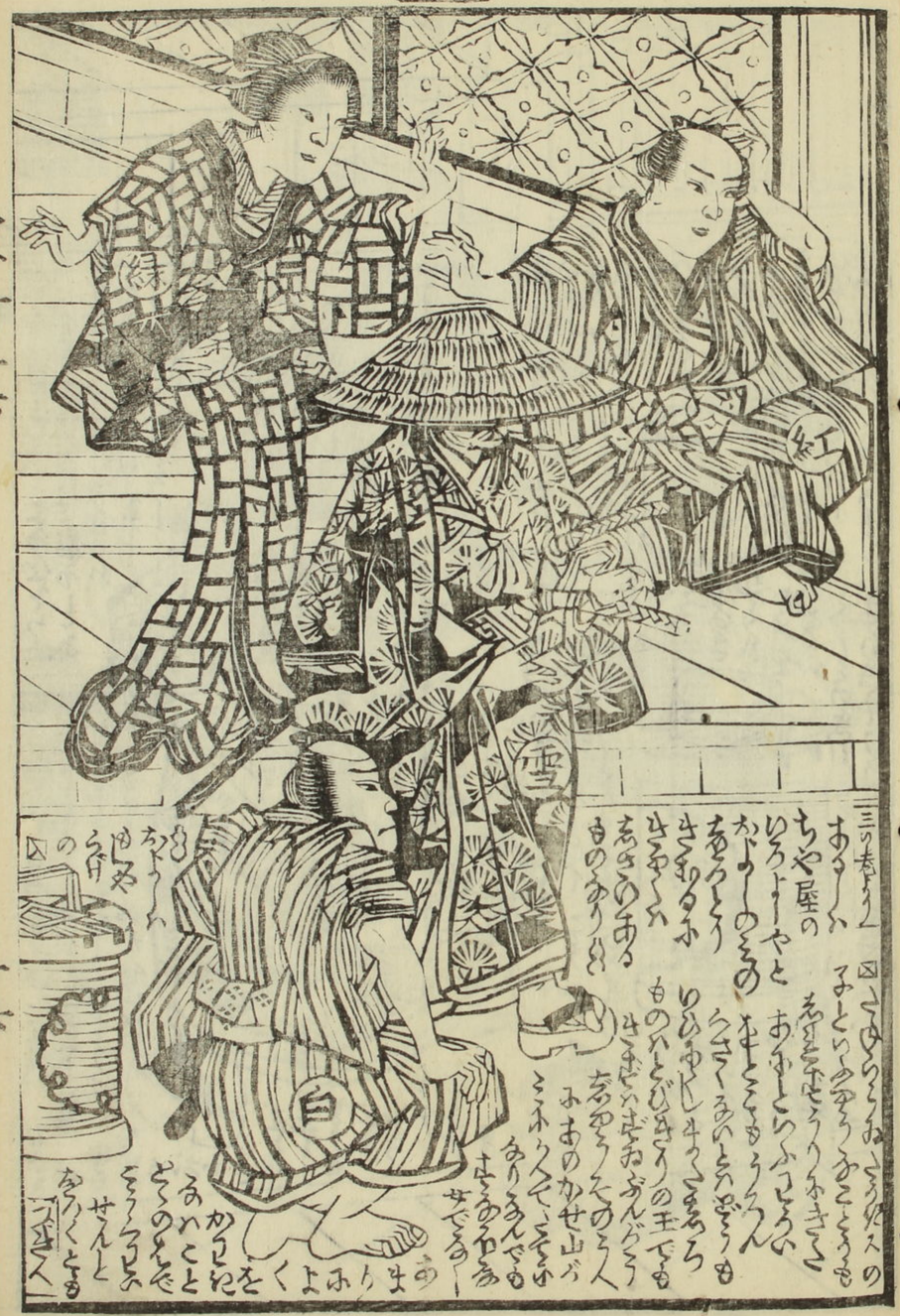
あとはそ
もくのシせあ
いまつこかこ
そうとういぐ
のんくおそくろ
かくらそこう
ふこやそ
まうそぐまる
さそくろくろ
ろうもやそ
まるくろ

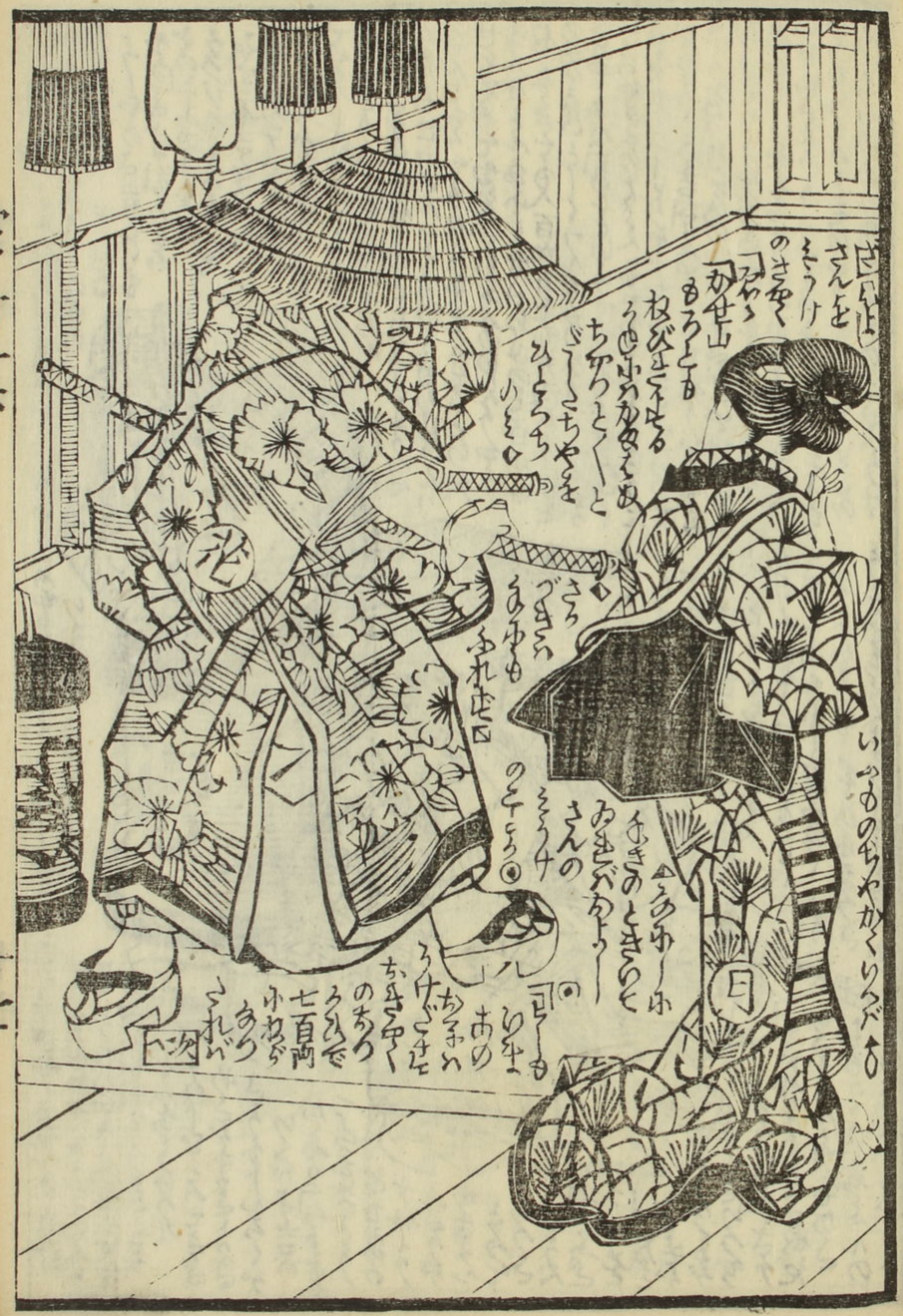
紅
縁

白
紅

白

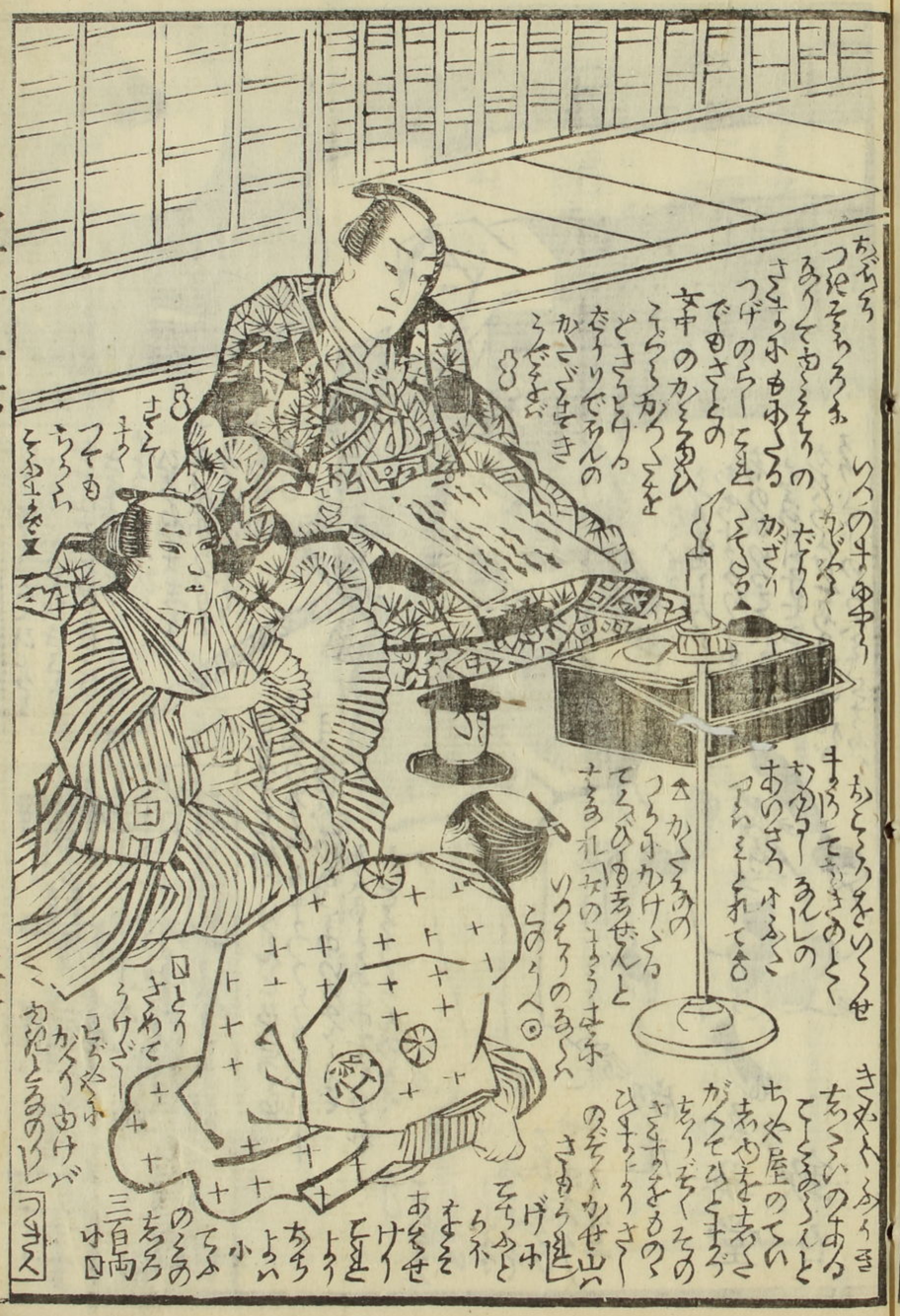
緑





松

雪



地本綿繪團扇問屋

厚化粧萬年嶋田 廿編 春水作 大尾國貞画

室町源氏胡蝶卷 三十編 種彦作 大尾國貞画

鼠祠通夜譚 十編 種彦作 大尾國貞画

童謡妙々車 三十編 種彦作 大尾國貞画

薄俤幼日記 三十編 春水作 大尾國貞画

新局九尾傳 廿編 春水作 大尾國貞画

筆海四國聞書 十五編 種彦作 大尾國貞画

明鴉墨画姫諸福 廿編 種彦作 大尾國貞画

花封菩王章 十編 種彦作 大尾國貞画

七ツ寺葛飾譚 十五 種彦作 大尾國貞画

御届 明治十五年十月八日

編輯兼出板人 京橋區南傳馬町一丁目 林吉藏

柳亭種彦作
梅蝶樓國貞画

イ 4
3157
52(32)